

令和3年度 第1回浜松市環境審議会 会議録

- 1 開催日時 令和3年10月8日（金） 午後1時30分から午後3時45分
- 2 開催場所 浜松市鴨江分庁舎2階 会議室
※本会議はWeb会議方式にて開催した。Web会議出席者は「3出席状況」のとおり。

3 出席状況

審議会委員

-	荒巻 太枝子	静岡県シェアリングネイチャー協会	
○	岡田 正利	浜松市自治会連合会	
○	田中 浩之	横浜創英大学 こども教育学部	会長
Web	中村 美詠子	浜松医科大学 医学部	
Web	野中 正子	浜松市消費者団体連絡会	
Web	藤井 康幸	静岡文化芸術大学 文化政策学部	
-	藤本 忠藏	浜松医科大学 医学部	副会長
Web	松浦 敏明	静岡県産業廃棄物協会	
Web	水谷 洋一	静岡大学 地域創造教育センター	
-	渡邊 記余子	浜松商工会議所	

事務局

環境部	藤田部長、松下参与、嶋野環境部次長（環境政策課長）
環境政策課	鈴木秀幸専門監（課長補佐）、辻主幹、加藤技監、朝比奈主幹、南堀
ごみ減量推進課	鈴木浩之課長、飯田専門監（課長補佐）、鈴木亨主幹
廃棄物処理課	石原課長、河野課長補佐

- 4 傍聴者 4名（報道2名を除く）

5 議事内容

① 諮問事項

- ・「家庭ごみ有料化に関すること（答申）」について
- ・浜松市一般廃棄物処理基本計画（ごみ処理基本計画編）の改定について
- ・浜松市一般廃棄物処理基本計画（生活排水処理基本計画編）の改定について

② 報告事項

- ・令和2年度ごみ・資源物の排出状況について
- ・第2次浜松市環境基本計画の進捗状況について
- ・浜松市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）の進捗状況について
- ・生物多様性はままつ戦略の進捗状況について

- 6 会議録作成者 環境政策課企画調整グループ 南堀

- 7 記録の方法 発言者の要点記録

- 8 会議記録 有（公開）

1. 開会

2. 挨拶

藤田環境部長

《部長挨拶》

事務局

《配布資料確認》

続いて、本日の会議の成立について、審議会委員 10 名のうち田中会長、岡田委員の 2 名が会場での出席、5 名が Web での出席をいただいている。過半数に達しているので、浜松市環境審議会規定第 4 条第 2 号により、審議会が成立することを報告する。

ここからの議事進行は、浜松市環境審議会規定第 4 条第 1 項により田中会長にお願いする。

田中会長

議事に入る前に、本審議会の公開について委員にお諮りする。

本審議会では、個人情報等の非公開情報を審議する予定がないため、議事を公開する。異議のない方は挙手をお願いする。

全委員

(異議なし)

田中会長

了承をいただいたため、本審議会は公開とする。
事務局は、傍聴者があれば入室をお願いする。

(傍聴者入室)

田中会長

本日の会議録は、事務局で作成し浜松市附属機関の会議録の作成及び公開に関する要綱に基づき、発言した委員の記載の上公開する。

3. 議事

審議事項① 「家庭ごみ有料化に関すること（答申）」について

田中会長

それでは、初めに審議事項①「家庭ごみ有料化に関すること（答申）」について、本件は昨年度から本審議会の専門部会であるごみ減量推進部会にて審議を行ってきたもので、ごみ減量推進部会での審議を経て、本審議会にて答申内容を議決するものとなっている。ごみ減量推進部会から、ごみ減量推進部会の審議結果の報告をお願いする。

ごみ減量推進部会

《資料 3-1、3-2 に基づき説明》

田中会長

続いて、部会での審議結果を踏まえて、審議会としての答申案を作成したので、答申案について事務局から説明をお願いする。

事務局

《資料 3-3 に基づき説明》

田中会長

この答申案について皆様からご質問等を伺う。

全委員

(意見なし)

田中会長

意見がないようなのでこのまま進行する。

それではこの答申案のとおり決定するというところでよろしいか。

全委員 (異議なし)

田中会長 この答申を市長にお渡ししようと思うのでよろしく願います。

審議事項② 浜松市一般廃棄物処理基本計画（ごみ処理基本計画編）の改定について
報告事項① 令和2年度ごみ・資源物の排出状況について

田中会長 それでは、審議事項②浜松市一般廃棄物処理基本計画（ごみ処理基本計画編）の改定について、説明をお願いします。こちらから昨年度からごみ減量部会で審議を尽くしてきた内容となる。

ごみ減量推進課 ≪資料4-1、資料4-2に基づき説明
なお、報告事項①も本件に関連するため、資料4-3に基づき合わせて説明≫

田中会長 ただいまの説明について、意見、質問等あればお願いします。

中村委員 先ほど審議に挙げた有料化とも関連するが、有料化するにあたり全体のごみの排出削減にどのような効果があるのか。有料化という痛みを伴うことで、それによって全体にどのような影響があるのか。例えばごみが減る、資源物が増えることが期待される、処分場をより長期間使える等の効果があるとわかりやすいと思う。痛みを耐える意味が分かりにくいかと思うところが気になった。

ごみ減量推進課 ページが厚かったので説明を省略したが、資料4-2の38ページをご覧いただきたい。個別施策について、家庭ごみ有料化は今後答申が行われて市が導入の可能性について検討していくということなので実施を前提としている話ではないとご承知おきいただければと思う。その中でごみの減量効果がどの程度かは資料3-2の11ページに家庭ごみ有料化を実施した政令指定都市の1人1日当たりのごみの排出量の減量効果の記載がある。全部で9都市が家庭ごみ有料化を実施しており、太枠部分の仙台市、福岡市、千葉市は浜松市と同じ単純指定袋制度から家庭ごみ有料化に移行した都市がこの3都市である。手数料単価や都市の施策にもよるが減量効果がどのくらいあるかを示している。12ページの表3は2000年以降に家庭ごみ有料化を実施した人口10万人以上の都市の減量効果の資料であり、手数料単価と、もえるごみ／もえないごみでそれぞれの程度の減量効果があったかを示している。本市においても家庭ごみ有料化を実施した場合は同等程度の減量効果が得られるのではないかと推測している。

中村委員 長期的に見て、市や市民生活に良い影響があることが具体的にわかると受け入れていただきやすいと思う。自分たちが痛みを伴ったことが市の将来にとってどれだけ良い影響があるのか、もう少しシミュレーションができると良い。平均ではなく、浜松市でのくらい長期的に見て効果があるのか知りたいと思った。

野中委員 中村先生と同じような話だが、有料化の審議における先行他都市の参考資料は、あくまで浜松市とは条件の違う他都市の結果がこうなっているから浜松市でも効果があるだろうという予測である。他都市の状況だけでなく、浜松市の状況をもっと入れながら、有料制度を導入すれば推移がどう変わっていくのか、効果が出て、市民にとって利益があるのかというところを示すと説得力があると思う。目的はお金を得ることではなく、ごみを減らすことであるので、ごみを減らすために他に有効な手段があるなら、みんな

で知恵を出して提案していくべき。浜松市は現在やってないからわからないかもしれないが、記名制ではごみが減っていたという事例もあった。どういう方法が良い悪いではなく、浜松市の現状に合わせてこうすればいいんじゃないかという、市民が納得できるようなデータを出していただけると良い。

田中会長 関連して資料4-2の4ページの「本市を取り巻く状況」で浜松市は南から北まで幅広いので、例えば山の方のごみの状況と浜松駅周辺のごみの状況として違う等あればいろいろな意味でネックかと思う。ごみの有料化の問題にしてもそのあたりはどうか。

ごみ減量推進課 手元に詳しい資料が無いが、浜松市は市町村が合併して一つの市になっている。旧の市町村単位で、ごみ減量が進んでいる地域があったりして、地域によってごみの量には差がある。

田中会長 他にはよろしいか。
委員から今出た意見をふまえて今後の手続き等を進めていただきたいと思います。

審議事項③ 浜松市一般廃棄物処理基本計画（生活排水処理基本計画編）の改定について

田中会長 続いて、審議事項③浜松市一般廃棄物処理基本計画（生活排水処理基本計画編）の改定について、説明をお願いします。

廃棄物処理課 <資料5-1、資料5-2、資料5-3に基づき説明>

田中会長 ただ今の説明について、ご意見・ご質問をお願いします。

中村委員 資料5-2で、大きく変わっているところは、基本方針3の長寿命化計画の策定と実施がなくなっていることで、今のご説明では計画は策定済みとのことだった。資料5-3の11ページの上から2行目で、「西部衛生工場についても計画的に行っていきます」との記載があるが、計画はもう立てられていると理解して良いか。計画が進んでいるようであれば、ここを具体的に書いていただければ長寿命化は進んでいくとわかり、資料5-2の基本方針からは外れてくるのがよくわかると思う。

廃棄物処理課 東部衛生工場については完了しており、西部衛生工場については現在、計画というよりは実行していて、完了はまだしていない。資料5-3の記載については承知した。

田中会長 全然関係ないところではあるが、大規模災害のところ、井戸水はどうか。この計画の中に入るかわからないが、水の確保の点で公共施設がストップする中で井戸水の役割が高いのかなと思う。

廃棄物処理課 こちらは排水の方であり、飲み水はこの計画には入ってこない。

岡田委員 私は自治会を5年ほどやっているが、基本方針1で、「市民団体や自治会との連携」とあるが、私の方ではあまり記憶にないので、具体的に何をやっているか教えてほしい。

廃棄物処理課 資料5-3の19ページだが、環境教育教室を開催しており、小学4年生を対象にした下水道教室や浄化槽教室を毎年実施している。水環境に関する意見交換会は市民団体または自治会との取り組みに該当する。

下水道工事課 水環境に関する意見交換については、自治会から出前講座で要望があれば行っているという状況だが、昨今の状況ではまだ依頼は来ていない。

松浦委員 資料5-3の資料編の1ページで、し尿及び浄化槽汚泥の原単位の表があるが、合併処理浄化槽は平成20年の2.53から令和2年度の2.52までそんなに変化がないが、単独処理浄化槽は1.15から1.55に増えている。くみ取りし尿は1.51から1.15に減っているが、この理由が分かれば教えてほしい。

廃棄物処理課 資料5-3の23ページの※2だが、汚泥の処理量の推計の値は「汚泥再生処理センター等施設設備の計画・設計要領」からきている数字なので、こちらでは増減等の理由はわからない。

松浦委員 くみ取りの量が減ったのは、出す量が減ったということかと思う。単独処理浄化槽は維持管理が悪くて汚泥量が増えているのか、そのあたりが気になる。また23ページの図表4-3で原単位がくみ取りし尿1.55、単独処理浄化槽1.09となっていて、先ほどの資料編の資料と数値が逆になっている。

廃棄物処理課 数値が逆転しているので確認して修正する。

松浦委員 23ページの資料が逆転しているとすると、これに基づいて処理量の推計をすると数字が変わってくるので確認してほしい。単独処理浄化槽から、合併処理浄化槽あるいは公共下水道になかなか計画通りに進んでいない。単独処理槽の一人当たりの量が増えているのは、維持管理が悪くて増えているのか。保守点検などがしっかりされていなくて処理する菌が全くない状態だと、ただ薄めて流すだけになると思う。計画の20ページで、合併処理浄化槽は保守点検・清掃・水質検査と取り組んでいるが、単独処理槽は行政としては合併の方に転換しているから、維持管理までは関知しないということなのか確認したい。

お客さまサービス課 単独浄化槽の維持管理も、合併浄化槽と変わりなく、職員が戸別訪問を行って、年1回以上の清掃、3~4回の保守点検を行うよう指導している。昨年度は合併浄化槽への転換の戸別訪問と、浄化槽の維持管理の戸別訪問を含めて年間9000戸実施した。

松浦委員 行政の方で回られているということで、特に静岡県内の保守点検率が非常に低いので、戸別訪問で回られたときに法定の点検を勧めるようにしていただきたい。

田中会長 今、様々な意見があったので、出された意見をふまえて、今後さらに手続きを進めていただきたい。特に資料については修正をお願いします。

報告事項② 第2次浜松市環境基本計画の進捗状況について

田中会長 報告事項②第2次浜松市環境基本計画の進捗状況について、報告をお願いします。

環境政策課 <資料6に基づき説明>

田中会長 ただ今の説明について、ご意見・ご質問をお願いします。

全委員 (意見なし)

報告事項③ 浜松市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）の進捗状況について

田中会長 報告事項③浜松市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）の進捗状況について、報告をお願いします。

環境政策課 ≪資料7に基づき説明≫

田中会長 ただ今の説明について、ご意見・ご質問をお願いします。

藤井委員 1 ページ目の太枠に、2030 年度に 2013 年度比で 30%削減とあるが、その下の表で読み取れるようになっていないのが気になる。下の表では 2018 年度の速報値で実績として 13.1%、20.0%減と書いてあるが、30%削減を目指すのであれば、2013 年度を分母にもってきて 2030 年度の温室効果ガス排出量 4254.5 というのが 30%減になっているなど書ければよい。ただ、この表では基準年度の 2013 年度の森林等による二酸化炭素吸収の部分空欄になっている。2030 年度の列の右側にマイナス何%という表記があるかと思ったが、ない。30%削減を目指すなら、下の表で読み取れる方がよいと思う。

2 点目は質問で、2013 年、2030 年、2050 年とある中で 2030 年に 30%減だが、次の 2030 年から 2050 年で、単純に足し算してはいけないと思うが、太枠に書いてある CO₂ 排出量実質ゼロに至るものかと、2030 年度でたった 30%減かと思う。要は、中間地点 2030 年～2050 年で、もしも同じペースが続くなら、0.7×0.7 にしかならず、2050 年ではゼロにならず 0.49 になる。2030 年で 30%削減というのは目標として小さいといえるのではないか。

環境政策課 1 点目の 2013 年度の森林等による二酸化炭素吸収量は算定していないので、基準年度比と書かれているものは、5,724,600 トンに対して比較した数値である。表の右側に 2030 年の目標値を記載しているが、次回以降は、わかりやすくパーセントについても表の中に加える形に訂正させていただく。

2 点目については昨年度の計画の見直しで、2013 年度比で 30%の削減という目標を設定したが、こちらは国の地球温暖化対策計画が改定される前の状態での見直しである。その時点の国の計画では 2013 年度比で 26%の削減目標だったが、国の計画改定がない中で目標値を上げるためには、市の施策のみで削減をしていかなければならない。大幅に目標値を上げることは難しかったため 30%の削減目標とさせていただいた。ただ、ご承知のとおり、計画見直し後の今年の 4 月に国は 2030 年度の温室効果ガス排出量の削減目標を 2013 年度比で 26%から 46%に引き上げる方針を決定した。国の地球温暖化対策計画やエネルギー基本計画の改定が進められており、また、地球温暖化対策の推進に関する法律の改正により、施策の実施に関する目標を定めること等の実行計画制度の拡充が盛り込まれた。令和 4 年の 1 月から 3 月には、地方公共団体実行計画策定・実施マニュアルが策定されて、周知されることになっている。最終的に 2050 年までのカーボンニュートラル、脱炭素社会の実現を目指すにあたっては現状の 30%ではなかなか厳しいということは承知しているので、これらを受けて改めて本市の計画見直しを検討していきたい。

田中会長 3 ページの「主な取組実績」で環境教育の受講者数とあるが、年齢層は幅広く受講しているのか。

環境政策課 対象としては子どもから高齢者まで、幅広い方を対象としている。講座によっては小学校に講師が伺って行っており、高齢の方だけということではない。

田中会長 子どもたちの意識は大切になってくると思う。先ほど意識変革や行動変容という言葉

があったが、私は態度変容という行動よりも態度から変容すること、それから意識改革・意識変革に非常に重みがあると思う。

報告事項④ 生物多様性はままつ戦略の進捗状況について

田中会長 報告事項④生物多様性はままつ戦略の進捗状況について、報告をお願いします。

環境政策課 ≪資料8に基づき説明≫

田中会長 ただ今の説明について、ご意見・ご質問をお願いします。

基本方針1のヤリタナゴの減少は原因について考えているのか。

環境政策課 業者にモニタリングしていただいているが、減少した理由や、今後こう改善した方がいいのではといった考察はいただいている。ただ、元々が弱い生き物なのでなかなか増やしていくのは大変だが、いろいろな活動を通して生息数を増やしていきたいと考えている。

田中会長 取り組み③の緑地の保全面積が変わらないのは、先ほど、二酸化炭素排出のところで吸収量が下がっているところがあったので、森林は削減されたのではと思ったが、これを見ると推移が変わっていないので、どういうことか気になる。

環境政策課 ③の緑地保全については、下の※2にあるとおり、特別緑地保全地区等の面積ということで、浜松市全体の面積とは異なる。

田中会長 2ページの基本方針2も3もだが、④のパートナーシップで企業との協定は、なにか広報の仕方があったのか。今年の10月に1件あったという話だが、お知らせはあったか。何が言いたいかという、さっきのアンケートはどうやってとったのか。例えばうちの大学ではスマホからできたりするが、人口80万人いる中でアンケート3000件というのはどうなのかなと思った。お年寄りの方ではインターネットが苦手な方もいると思うので、広報の仕方やアンケートの方法がどうだったのか気になった。

環境政策課 生き物パートナーシップの広報は環境活動されている団体で、課題がある団体にエントリーしていただき、団体でこういうことをして、こういうことをしてほしいと出していただき、ホームページに掲載して皆様に知っていただくようにしている。ただ、なかなかホームページを見て企業からお手伝いをしたいということがなく、よく当課に企業が環境の活動を手伝いたい、CSRをやりたいとご相談をいただく。その中でこういう制度をやっていて、協定を結んでお手伝いしていただいているかどうかとマッチングをしている。企業の求める活動と団体が困っている内容をこちらで合わせて、そういう形式で2件目の協定に結びつけたという状況である。

田中会長 せっかく目標の中で、市民と事業者あるので、積極的なところが必要かと思った。

野中委員 農地が5.1%減というので多様な生きもののすみかを守ろうとあり、緑地保全面積をかるうじて確保したとある。これは感覚だが、農地は確実に減っていると思う。荒れている農地が緑地に数えられているのかどのようなカウントかわからないが、気になる。また、森林の面積が減っていると思う。見た目という森林がどんどん伐採されて太陽光発電が増えていると思う。そのあたりをどのようにコントロールしているのか、どこ

まで開発して太陽光発電の施設を作って良いのかと、農地は守っていかないとどんどん減っていく傾向にある。ただ緑地が確保されればよいのではなく、農地は貴重な水資源や、洪水対策としてあるので、考えていく必要がある。感想です。

田中会長 緑地の定義と、浜松市として緑が減っているのではという話についていかがか。

環境政策課 当課の事業ではないが、緑政課の緑の基本計画で緑地の保全に取り組んでいる。そちらと調整しながら、こちらも生物多様性には森林を残すのも大事な要素なので、緑地の保全に努めるようにしていきたい。

田中会長 太陽光発電にしても空いているところに設置するということもあり、環境破壊まではいかないにしてもという話になるかもしれない。

中村委員 全体的なことだが、市としては色々な情報を広報はままつやホームページ等で紹介していて、現実的にそれ以外の方法は難しいと思うが、例えば先ほど水環境のところで、自治会との協働について、お声がけがあったら出前講座しますという、自治会の方では知らなかったということだった。市民との協働で情報のやり取りが広報はままつとホームページだけでは難しいところがあるので、自治会、学校、企業等と色々な形で、ごみのこと、生物多様性のこと、水処理のことも、お互いに情報が伝わりやすい形をとっていけると良いと思った。感想です。

田中会長 やはりそこが一番大切なところで、市民を挙げてということで、例えば審議会でフォーラムを開いて市民を呼んでという方法などもあるかもしれない。そのあたりは今後考えなくてはいけない。

環境政策課 先ほどの森林吸収の件で補足がある。森林吸収量が減っているという話で、資料7でご説明した浜松市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）に関連があるので、回答させていただく。資料7の1ページ目の中ほど、市域の温室効果ガス排出量の推移について、2018年度の森林等による二酸化炭素吸収は392,300トンで2017年の405,500トンに比べて、確かに吸収量が減少している。一方で、下の進捗管理の指標4の森林認証取得面積は増加している。森林認証面積が増加したにも関わらず吸収量が減少した原因は、二酸化炭素の吸収量は樹齢が若い、成長が活発な森林の方が大きいため、2018年度は50年生以下の若い森林が減少する一方で、51年生以上の森林が増加しているので、結果として吸収量が減少したということである。

田中会長 以上ですべての議事が終了した。全体を通して、何かご質問、ご意見等はあるか。

特にないようなので、進行を事務局にお返しする。

4. 閉会

事務局 本日は、長時間にわたりご審議いただくとともに、貴重なご意見を賜わりお礼申し上げます。以上で本日の環境審議会を終了とする。